

ネットで支え合う親・子・地域・学校

－ ASP 型コミュニケーションサイトを使った情報・感動・行動の共有 －

岐阜県本巣市立糸貫中学校 教諭 若曾根隆彦

キーワード：ASP 型コミュニケーションサイト、掲示板、第3世代携帯電話、家庭、地域

1. はじめに

生徒が、周囲の多様な情報や価値観に翻弄され自分のめざす方向を見失ってしまわないために、家庭や地域と学校が連携して情報・行動・感動を共有することは大切である。そこで、整備されたネットワークシステムと本校の文化である『ネットワークで育まれた心』を生かして、生徒の活動情報を素早く地域、家庭に発信しその評価を得たり、教師や生徒、保護者との意見交流を重ねたりしようと考えた。そのために、即応した情報発信が簡単にでき、堅固なシステムによって安全に意見交流できるASP型コミュニケーションサイトを利用することにした。これによって、中学生に、地域や保護者からも自分たちは支えられていることを認識させ、自律した生活をおくる一助になることを願った。また、保護者や地域の方と学校が一体となって生徒の健全育成を図ろうと考えた。

2. 実践の概要「家庭・地域と学校との密着を図る掲示板活用」

家庭・地域と学校との距離を縮め、温かみのある交流が実現できるように、次の段階を経ながらASP型コミュニケーションサイトの掲示板を活用しようと考えた。また、運用にあたっては、利用者が属するコミュニティを反映したものにするために、設定するユーザーは、コミュニティを形成している各階層を代表するものにした。地域からの学校に対する評価・意見を得るために、学校評議員の方や地域の有志の方に、「地域サポーター」として、このコミュニケーションサイトに参加してもらっている。

(1) 第1段階：情報・感動の共有

保護者や地域の方から、生徒の頑張りに対して激励や賞賛の言葉が得られる情報を、コミュニケーションサイト掲示板に掲載した。それらの情報を得た保護者や地域の方は、その感想等を『糸中生への応援メッセージ』としてコメントした。具体的には、『校外学習レポート』『部活動中体連速報』『体育大会レポート』について、生徒自らが、活動の記録を第3世代携帯電話にて撮影記録し、コミュニケーションサイト掲示板を利用して、地域に発信していった。

(2) 第2段階：心情の共有

生徒にも保護者にも関心のあるテーマについて、情報発信し、学校側の考えも交えながら交流を深めようと考えた。具体的には、『進路情報コーナー』を開設し、高校1日入学で学んだことを掲載した。保護者と生徒が、進路実現に向けて互いの心情を尊重しながら共通の願いを模索し、ともに努力する姿勢が生まれることを願った。

(3) 第3段階：行動の共有

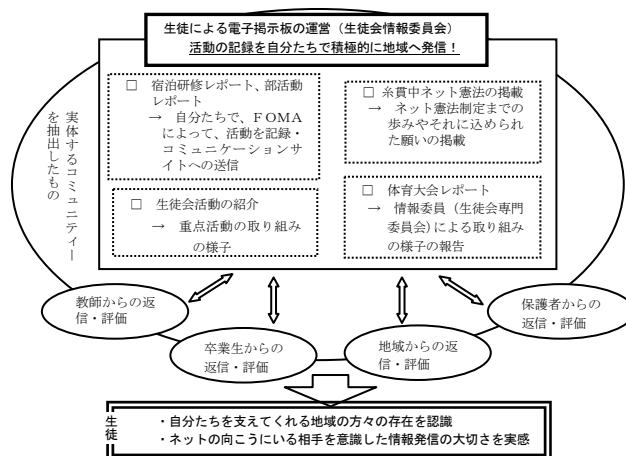
自分たちの学校、地域の学校という意識を醸成するためにも、保護者や生徒と学校職員が意見交流できる電子会議室を設置したい。この会議室での議論を通して、問題点や改善する方向性を共通理解し、オフラインで、関係者（PTA役員、学校評議員、学校職員、生徒会等）による協議を経ながら、そこで討議された意見を学校運営に反映できることを願う。

3. 成果と課題

3年生が、校外学習の北海道から帰宅したとき、「登録した画像を家庭からもみることができたことによって、家族との会話が増えた」と感じた生徒が全体の25%いた。保護者にも同様の質問をしたところ、42%の方が増えたと答えた。ある保護者は「リアルタイムで活動の様子がわかり、離れていても安心できた。早く子どもの話が聞きたくて帰ってくるのが待ち遠しかった」と語っていた。

また、部活動レポートでは、掲載した記事に対して、保護者から「試合結果をそのまま伝えるのではなくコメントがあってよかったと思います。見て頑張っていることが感じ取れました」というコメントや「お疲れ様でした。3年の先輩方、子どもたちによくしてくれて本当にありがとうございました」というお礼のメッセージを書き込んでもらえた。生徒には、自分たちを見守ってくれる保護者や地域の方の存在と温かさを認識するきっかけとなった。

ただ、生徒が発信した情報に対する地域や保護者からの評価・返信が十分とは言えない。今後は、保護者からの返信を生徒はどう受け止めたか、その感想等をオフライン（紙による「学校便り」や懇談会）で紹介していくなど、啓発のあり方を検討する必要がある。



<図1> 温かみのある交流の実現を図るコミュニケーションサイト